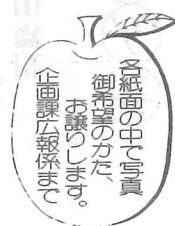
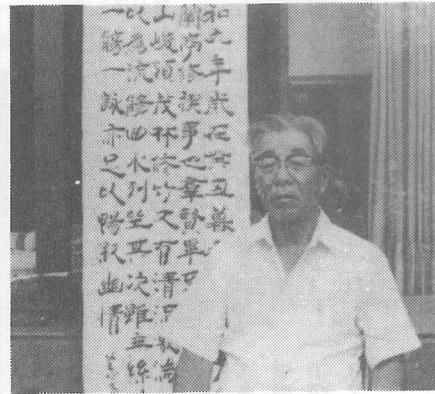


# 町民のひろば

## これあれ自慢 ⑩ 書道

浅野 環 さん (立会)



### 横芝俳壇

街の角出水に塵の寄りつきし  
木下石果子  
湯浴(ゆあみ)すや吾が夏瘦の足  
なでる  
三枝 句城  
アイシヤドー哀れに濃ゆく夏瘦せぬ  
古屋 紅雲  
夏瘦の顔とがらせて居眠れる  
林 義村  
梅雨を置いて野良犬駅に迷いこむ  
佐久間三枝子  
こたえなし風鈴はなる奥の方  
安井ゆづる  
夏負けの身に喪の帯をキリと結い  
次 回  
日時 九月六日(水)  
兼題「日ぐらし」「芒(すすき)」

肩の張らない気楽な字を書くこと——をモットーとする浅野さんの書道歴は三十五年。県展、県高齢者作品展などに数多く入選、特に昨年の県高齢者作品展では県知事賞を受賞、生来の卓越した腕にさらにみがきがかかっている。現在は県老人大学書道クラブ会長、町「書の会」講師として、後輩の指導、育成にあたっている。(連絡先(2)3186まで)

白ざくろ誇らしげなる玄関前  
土屋 栗水  
夏瘦の頬目薬の伝いけり  
石川 奇水  
草陰の草のひよわに夏瘦する  
成田 憐子  
此の庭や緑蔭所々に静もらせ  
宇井 芝童  
他所からも頼まれたのし七夕の馬  
若梅あやめ  
夏瘦て娘は新米の教師たり  
藤代 ゆう  
鈴木 南知

弟は毎朝早く起きます。わたしが起きる時には、もうとつくと洋服を着て遊んでいます。そんな弟が今日だけは、なきべそをかいて、むしゃくしゃしている時にやるように、ゆかに足をトントンぶつけています。わたしが「なんで、なきているの。」と聞くと、「くつ下が、さがしてもないんだよ。」と、べそをかきながら答えました。「いつも入っている所がないの。」と聞いたら「だって、そこがないから、こまっているんじゃないか。」と、おこったように言いま



### 弟のくつ下

大総小四年 石橋正代

した。わたしは起きたばかりなので、弟のことより自分の洋服を先に着てしまおうと思いました。それから少したって、わたしが洋服を着終わった時には、弟はま

す。ふぐのように、口をとんがらせていました。「きのうあらったんだからあるはずだよ。」とおかあさんはおこったようにいいました。弟はいつもなんでもよくさがさないのです。おこられて、のりひろやわたしのタンスの中もさがしてしまいました。庭を歩いていたおばあちゃんも「なんでそんな大声をだすの。」と言いながら来て、い

つしよにさがしてくれました。わたしも弟といっしょになって三人でさがしました。弟のタンスの中に入っていないと聞いたので、ほかの所をさがしました。朝ごはんの用意をしていたおかあさんも来て、「ちゃんとしたはずなんだから、よくさがさなかつたんでしょ。」と、言いながら弟のタンスの中を見ました。「ちゃん、ここにありません。」おかあさんがさがした時には、いつも入っているところにありました。弟がよくさがさなかつたのでみつからなかつたのです。「としおは

目が悪いね。」と、わたしが言ったら「人のことはいいから、自分のことをきちんとやりなさい。」と、おこられてしまいました。弟は、もつとよくさがせばよかったのになあ。ものを、わかりやすくおいておけばなくなることもなかつたんだなあ、と思いました。弟は、まだあまりこりた様子はありませんが、これからは注意すると思います。

